

令和6年度大阪府中学生チャレンジテスト 中学2年生 結果概要

教育推進課

実施日時: 令和7年1月9日(木)

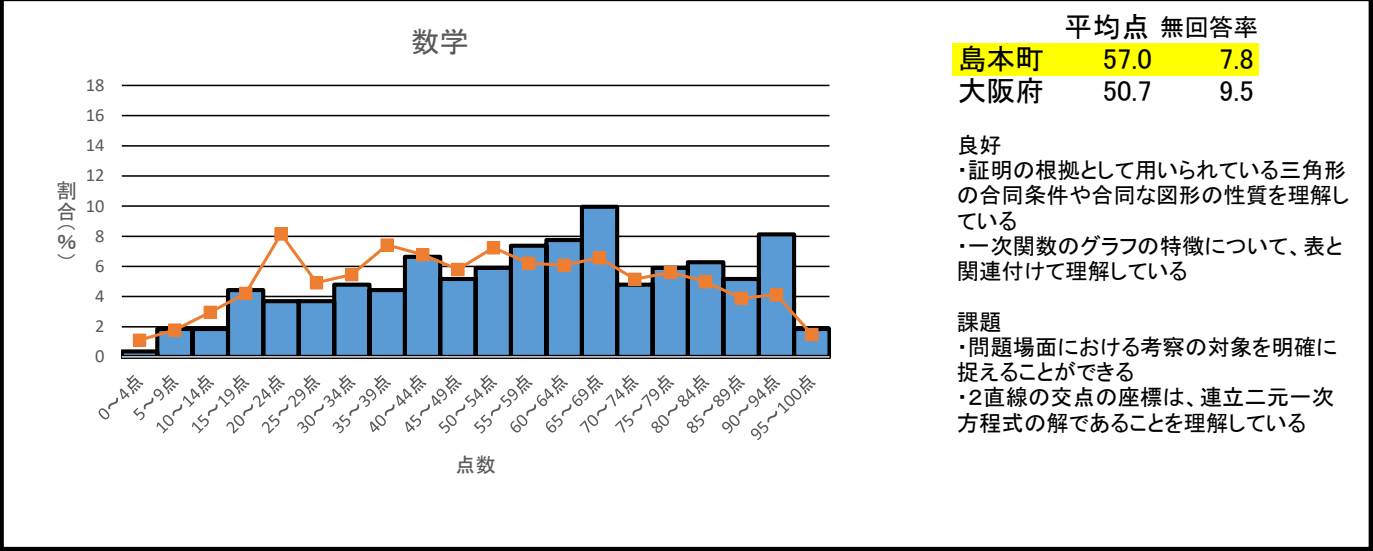
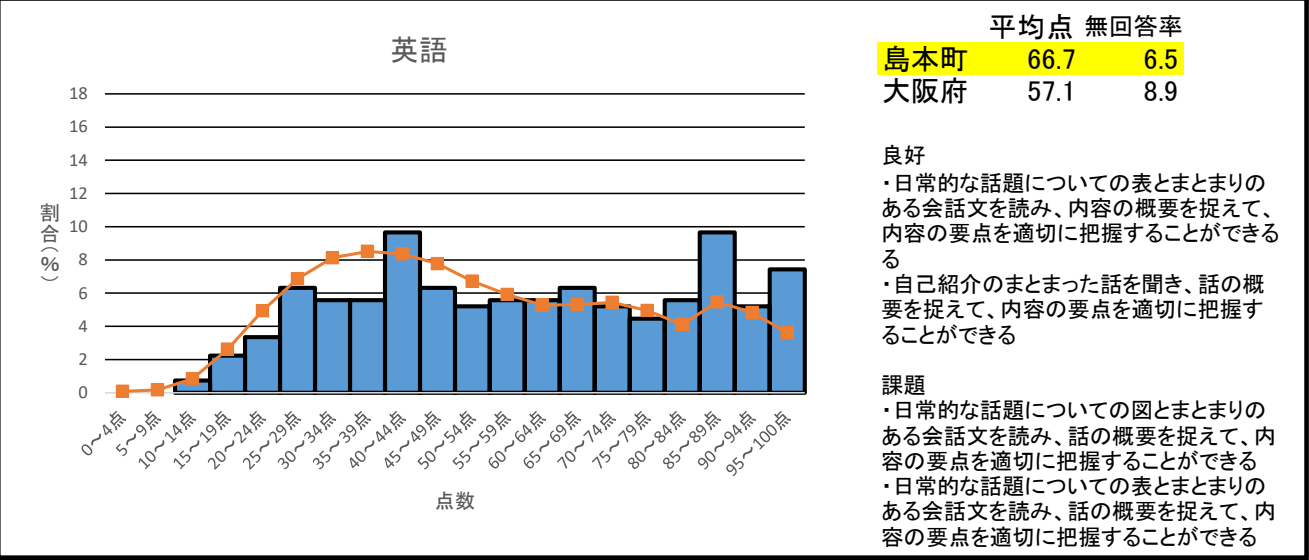
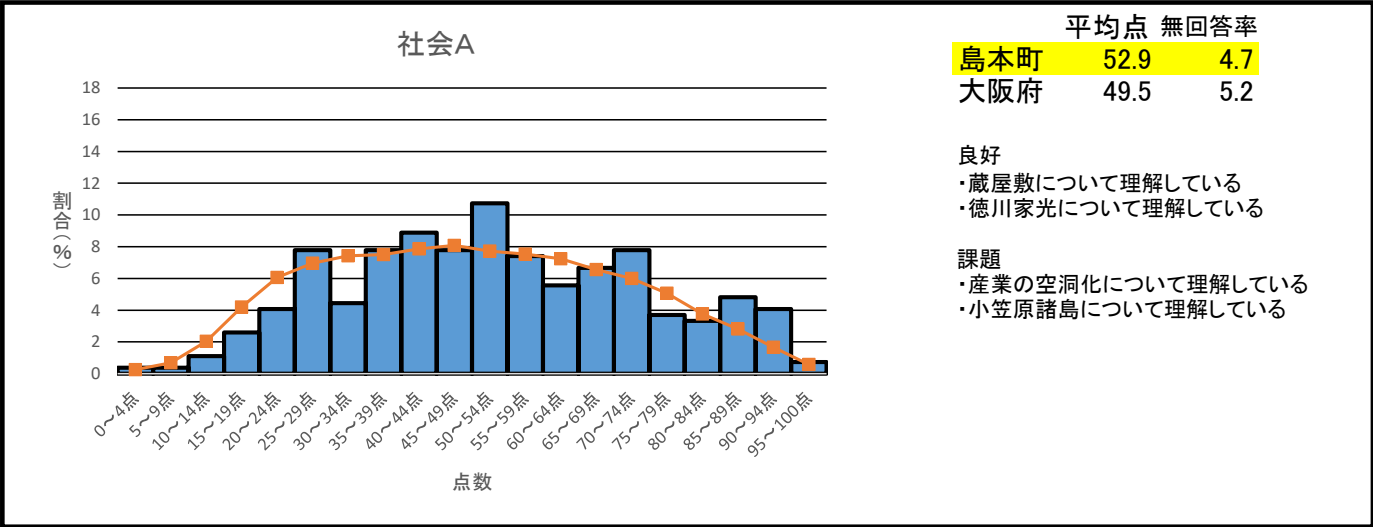
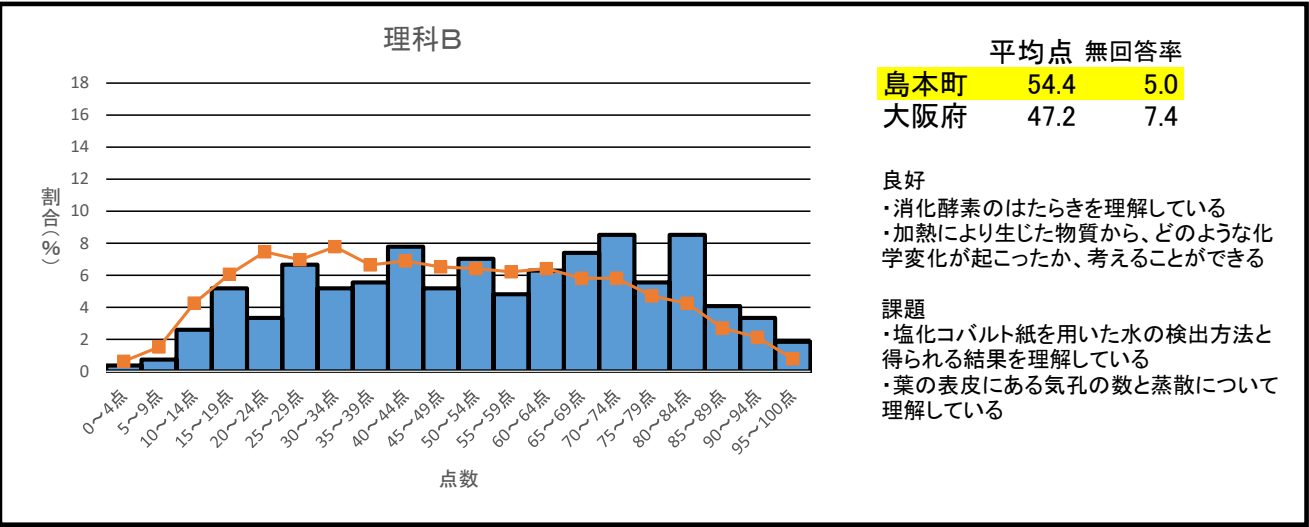
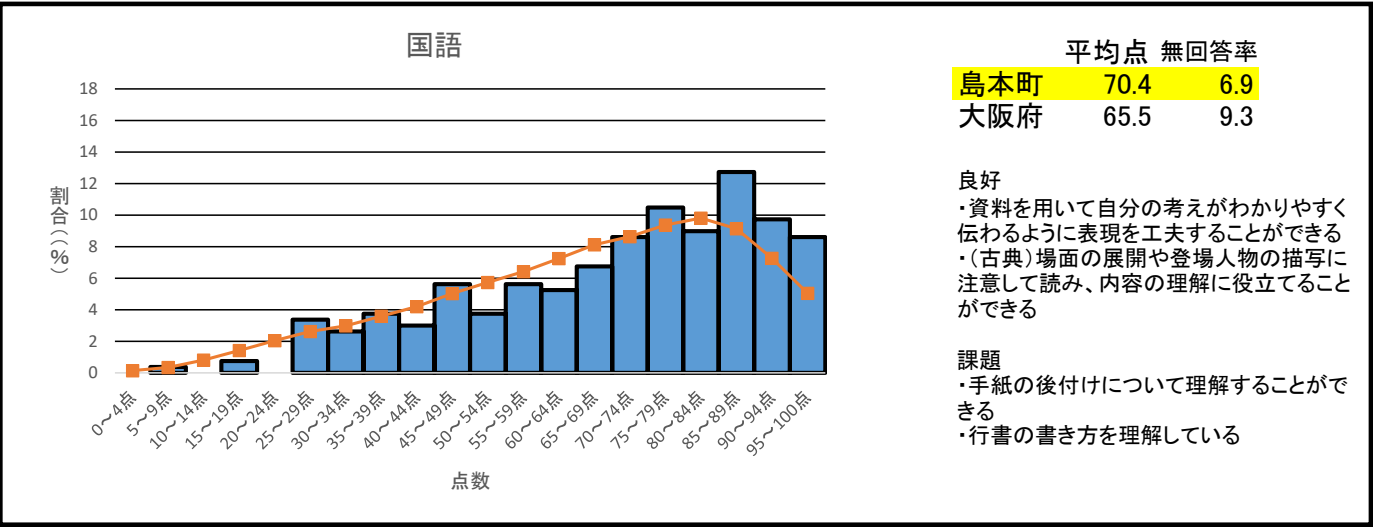
対象・内容: 第2学年(国語・社会・数学・理科・英語、各教科アンケート)

※社会はA問題、理科はB問題を選択

実施校数: 2校(府内469校)

実施生徒数: 271人(府内56, 428人)

1. 度数分布及び教科別結果概要(平均点)



<結果概要>

国語: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

社会(本町はA問題): 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、地理的分野と歴史的分野を比較すると、地理的分野で大阪府平均との開きが小さくなった。

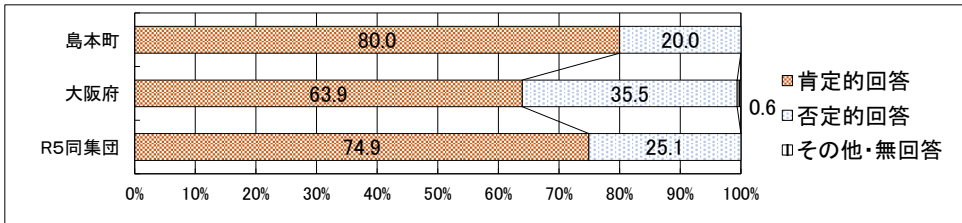
数学: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、図形分野からの出題において、大阪府平均との開きが小さくなった。

理科(本町はB問題): 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点からの出題では大阪府平均との開きが小さくなった。

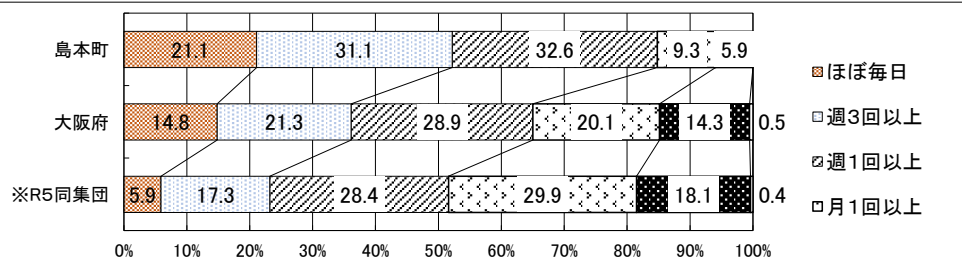
英語: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、「聞くこと」の観点からの出題において、大阪府平均との開きが小さくなった。

2. アンケート(抜粋)

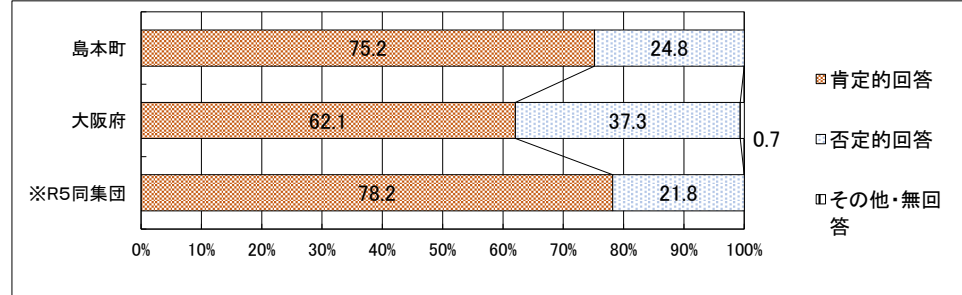
(3)授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。



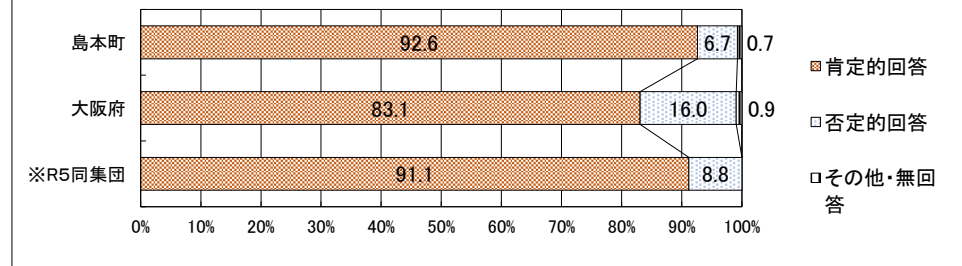
(4)授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。



(5)家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。



(6)あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。



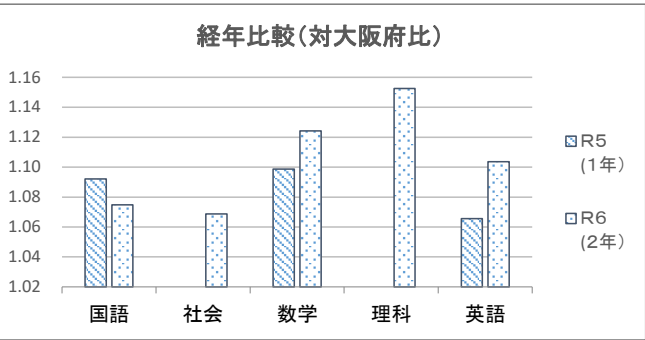
<アンケート結果について>

○昨年度課題として挙げた(4)については、使う頻度が「ほぼ毎日」及び「週3回以上」と回答した生徒の割合が、大阪府平均を16.1ポイント上回った。また、昨年度の同集団の結果と比較すると29ポイント上回った。ICT機器を効果的に活用する場面が、各中学校において適切に設定されていることと、(3)の結果からもうかがえるように、思考を深化させるツールとして運用されていることがうかがえる。今後もICT機器の効果的な使用場面を研究していきながら、生徒が適切な媒体を用いて自己の意見を表出できるような取組を目指していく必要がある。

●一方で、(5)については大阪府平均と比較すると肯定的回答の割合は13.1ポイント高いものの、昨年度の同集団と比較すると肯定的回答の割合が3ポイント低下している。今回の教科別結果からも、知識及び技能の定着を問う設問(手紙の適切な後付けを選ぶ、小笠原諸島が属する都道府県を選ぶ等)で正答率が大阪府平均を下回る結果となっていた。生徒が自らの状態を客観視し、自らの学習に何が足りないか気づくことのできるよう、個別最適な学びの実現を目指し、各中学校が取り組む必要がある。

3. 教科別の2か年の推移(1年次は国・数・英のみ)

	国語	社会	数学	理科	英語
R5 (1年)	1.092		1.099		1.066
R6 (2年)	1.075	1.069	1.124	1.153	1.104



4. 教科アンケート 類似質問への肯定的回答状況 質問事項 経年比較

①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。

②家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。

③あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。

	①	②	③
R5 (1年)	74.9	78.2	91.1
R6 (2年)	80.0	75.2	92.6

